

北槎聞略

卷四

和書門類
一八三〇一號
一七八函
一一架
一〇枚二軸一二冊

内閣文庫
一八三〇一號
一〇枚二軸一二冊
一八五函

内閣文庫
番號 和 18301
冊數 24 (4)
函號 185 579

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

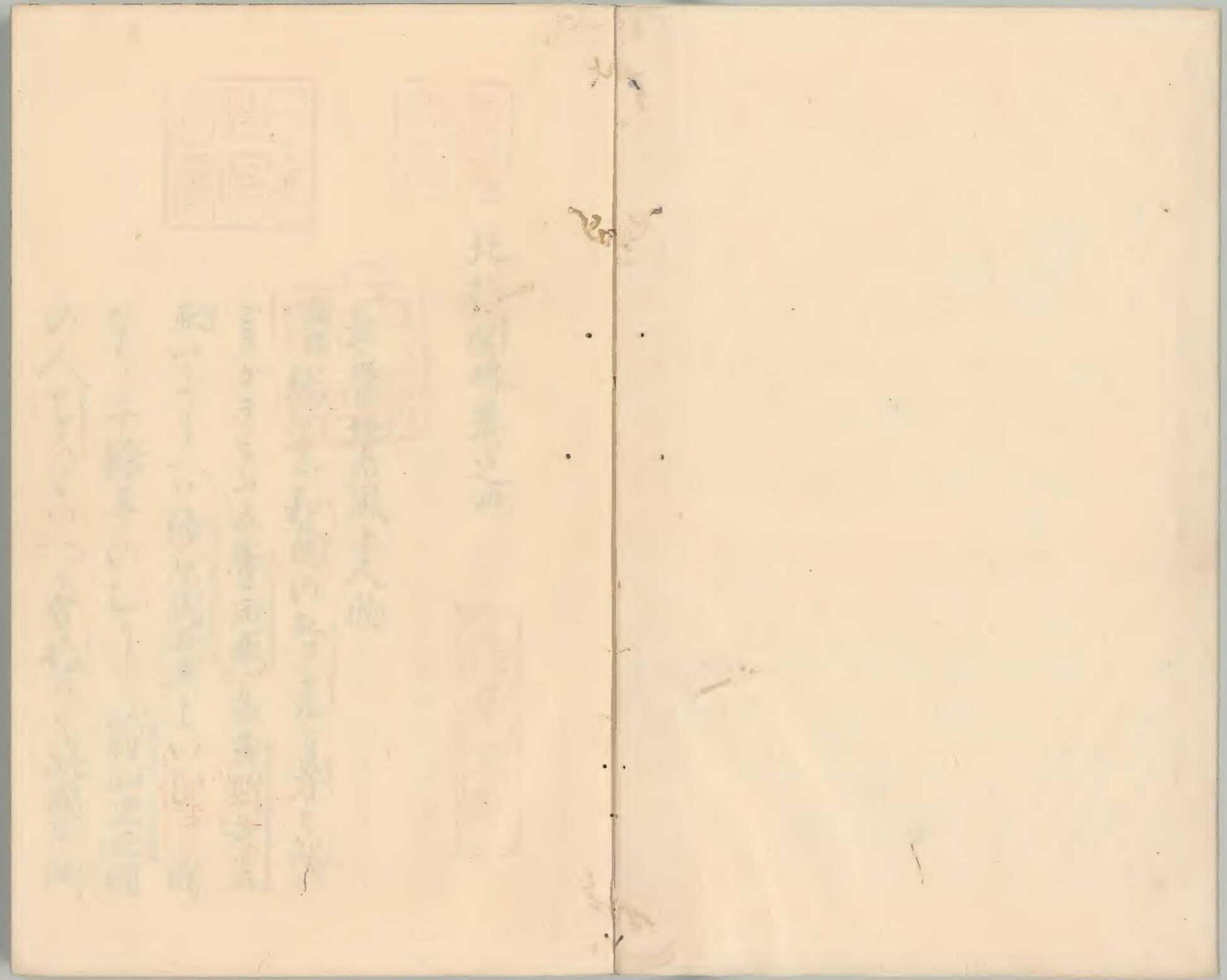
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak





漫草文庫

唐書

北槎聞略卷之四

涉歷地名風土人物

國瑞
接
シラガラヒ小云魯西亞一名莫斯哥未

沙爾馬西亞といひ國

千餘年のじり翁加里亞國のノロスといひ者始めて此國を開

日出府
圖書

きと王たり——より其祖王の名を
以て其國小名つけ魯西亞と稱せ
——又其都城をムスクワと云
りと莫斯哥モスクワと称せと乾
隆御製集池北偶談等載る俄
羅斯一名羅义トヨシミの即是也魯
字舌と轉して呼ぶ者ア字と云
例ゆりふとく

皇朝少く名シマと稱——支那と亦
俄字を冠ス——ナムニ——畢竟
絶域殊譯輒轉——と字を用ひ
ナム音韵リテ、彷彿の間シモ
リテ譯字魯西亞羅义を以て切近
ナムと其ナ國ハ歐羅巴洲東
北境の大國少く西ハ波羅泥並雪際
粟小壤を接——南ハ韃靼黑海北

高海小際——東ハ亞細亞の大韃靼
接——北、冰海ヒムカ、或は東西徑ヨウシキ、八百
餘里南北五百六十餘里五百六十餘里の里法リカフ。氣候極
く寒く土地多々ハ曠原茂林アラビヤ
諸穀モクを產スル。絕少ゼンスル。汗ハ
之シテ土人トコロの野陋ワラカ強暴ヤクバウ、專
勇ヨウとぬじのナウシ道理リョウイを弁ワタツ多
者シテ少シテからず。百餘年前ハジメノ國王

ペトルアレキセヌチトシ——人ヒト、德絕
盛ハシマ、智絕チハシマ、高タカシマ、神武英雄ミンブヨウエイ、絕倫ゼルン、而
廣ハラハラ、土地チヨウジを保ホル、多く河遁カツムと開ハサム
溝カニカニと通スル。大小交易ヨウジヤウの利ヨリを起スル
其國を富マサニ——又諸國ハシマ、有名ハシマ、名ハシマ、
師儒シラフをししく處スル、小學校コウガッサを設スル、國
人ヒトを教導カウドウ——算數センスウ書法シフハウトト、百工
技藝ギエイのハシマ、小學コウガッサ、而各良工巧匠ハシマ、近ハシマ

撰々其道を教へ時々志免風俗
言語衣服そして古俗の惡を除くと变革
改化日小ヤリトマニテナニ
是より先千五百四年、永正小姓と帝
号を称セ。トテ次第小強國中
カリリれるも特小ペトル小之威名
大抵近隣矣。臣服セリク
兵威り漸く小強盛小ガリト北ハ

雪際亞の東北よりシニランドを奪
南都ル格を破りシ黒海沿岸入
アソフ互ドワの諸城を抜キ東の方
亞細亞洲より大韓靼の北陸を侵掠
沙漠ト北冰海小汎東北の盡
頭亞墨利加洲の坡並泥僉陝小到は
すて南北八百餘里東西凡千六百餘
里本邦の坡を吞併ト々今世

夷第一の大國トナリ也亞細亞小
属地也總稱シヒリと云
又魯西亞韃靼ト海と其内空氣
处の諸々氣候の寒燠人物風俗の
害惡ルモ、一樣ガトと其うり漂人
等う観く經歷と處のものとた
小舉

○アミシマツカ 光太夫等船と漂着附

一北至東西六七里南北三四十里許
あるトノハ小島也地氣甚寒、四五月寒
以テノ雪アリ十月以下、寒海ノ氷
冰凝ト、男子ハ被髮、女子ハ髮を三川うち
ふ縫ト、後小垂、男女とも小跣足サ
手足不輕々の紋様を刺青ト、女ハ面
小リ蔓草花紋を刺、下唇の兩傍と
鼻孔小鯨牙骨の類を樹く飾也

其やうに二分計りと長さ二寸半
鼻孔のよの、細く而义小振りより少
上のあふ勾まく 鼻漏を穿くと左方
セモ唇のよの、深漚丁の状じとく小造
ヒ唇の内の方より棹とひかくる
生れと四五歳のころは両親小刀とりと
孔を穿川刺青、十六歳のころもく
りぬふとく紋様を刺とう男

子ありまし入らず者なり衣服は鳥
獸の皮を縫ひ依のくも縫し肩袖
小こゝと領のふく頭をせとむすびてひけ
裾すくへ入くキラナリ長さ膝を
ゑれ袖りつ男女ともめ異がりますば
夏ハ毛を外め、冬ハ毛を拂ふと笠
木かく造り形は木の葉のよきさき
尖し復圓、傍にとふだのゆき

孔とのちや額まほすとがれりと
トリ文字ぢく曆日を知りて教誨せ
あ人倫の道を弁へれりと血脉
のほきりとへ娶りと歸人月事
の間、衣服をかへ別名ふみり性質愚直
ふ生穴を深さ八九尺ふむく上は草を
すき其よふ土を覆ひ入口ふ圓木小刻を

つてアヒとくちき足からと
出入と下ふ、草をかき風呂の仕は
入口の風よふ板を立てて雪を下すと
食物、スタチキイの類タラスカ大口魚と
火魚や草小衆み潮を蘸ひきて石もて曲
角かどを置其下もと板の下もと
トリ火を焚かかず潮を灌くにてと遊

燒かれて食ふ又其石板の周より縁
をえりて鍋ふく身青ふは土塊の產
ゆく骨よりて堅く、磨く、危丁鎗の
類又は海螺をそり追、鬚鎗小化が砂石蝦夷
と方言アゲト、麩、毛剥、剃られり大明一統志
女直の主産ふ石炭黒龍江出名水花石堅利入鐵可鑄
矢鎗よつよの即開争の付、モ鎗と曰ゆ
是とシテリーカと云ふ又汁ハサラン
黒百合と云ふ草の根を水あ煮、搗爛

水よりの酒を白酒(ホワヒ)の如く少一本の鱈(ハコ)を
盛(カタマリ)木のセ(セ)かとよしと啜(スル)ふ又コレこと
以草の根を塙(カツカツ)皮を剥(ハグ)ふと煮搗(クモリ)
碎(ハグ)きけりとよも詼草根(ヨモギ)松(マツ)の葉(ハラ)サラナハ
上饌(ヤシル)と常(ノル)ふ用ひ多きと云々冬
ニ寒海翁(カムシロウ)と魚獵(カツ)りうげりあ
夏のうち小魚類鳶雁(アヒル)のたじりと多く
之を乾(カサガリ)貯(カタマリ)おま潮(シマツ)少く煮食鳶雁(アヒル)

鳴^えい春^{はる}のあふ南^{みなみ}の方^へよりゆく事^{こと}あり
夏^{なつ}のうら^い山^{さん}間^{あいだ}の岩^{いわ}間に多く卵^{たまご}をうし
えや女子^{めのわざ}のつぶ小日^{こひ}にうすふじふゆ大
抵^{おほ}く百餘^{ひゃくよ}完^{げん}りそろふかず^{かず}雁^{かり}鳴^{なき}
羽毛^{はもう}を鬻^{うり}ばせりれ、毛皮^{けい}を賣^{うり}ひよりぬの
鎗^{やり}あとつき、或^もハ棒^{ぼう}あとうら落^{おち}と魚^{さかな}
魚^{さかな}の骨^{ほね}を鉤^{つる}ふ造^{つくり}、魚皮^{さかん}を餌^{あひ}と
と詠^{うた}ふゆのうらふ夥^{ひし}（鉤得）

お芋^{いも}が^{いも}又^{また}アゴテ^{アゴテ}とよ草^{くさ}多^{多く}堵^ふ
堵^ふと生^い麥^{むぎ}（むぎ）冬^のの如^く黒^{くろ}き實^みを結^{むす}
うと食料^{しりょう}とす味^あし甘^{あま}く破^はく食^く
「^ハ唇舌^{ちんぜき}（ちんぜき）深^{ふか}く^く飲^の物^{もの}海邊^{かいへん}の
石^{いし}上^{うえ}ふすむ^む草^{くさ}の葉^はを煎^{せん}ト茶^{ちゃ}の如^く
く^く小^こ形^{かたち}葉^はの状^{じょう}虎耳^{こじゆ}草^{くさ}ふくら^{ふくら}と色^{いろ}
深^{ふか}緑^{りょく}す^す乾^か鷹^{たか}ぶふ數^{すう}年^{ねん}をくれば^{くれば}色^{いろ}變^かる
事^{こと}と雪^{ゆき}ワ^ワ草^{くさ}の魚^{さかな}をすけ^{すけ}て煮^いふと煮^いふ也^じ

はる山野より小草叢のみと箸や木
木をも生むれり漂木の流れます
夥おほ 年中の薪炭化、舟具等すりし
皆漂木より取れりとひきと
海猿海豹海駒の屬極く夥おほ 一
皮船小舟シテリーカかくつきと
やまとき貯あつ おまく租税がし交易の
貨物とくも、中國の商人アムニ デガーフ デミドフ

等うる下の者五年五の交替りとせ
海カウ トライ煙草木綿牛馬の皮を以て
交易セ牛馬の革ハ皮船小造ふ料サ
皮船の制ハ長さ二間計物三戸餘骨カツ
木すと組立ひ上小牛馬或ハ海駒の皮
を体小縫カツ トキセ正中小圓カク 孔をあ
け、小舟乗腰カツ 上をセ、みの入
ああ孔の下カタ トキセ中筋カツ

如くはあくはうを仕外標あくいき
もれたりとみるより小刀の外
斧鋸の類いたゞりさすりれ漂木
をうつて見鎗ふ送ふ石を小刀にて
石をうち込漸く小綱（ま）ふ破と小刀
あく削（くず）と上卓子の組子のやくと小組
鰯の筋（すじ）と結（むす）てはと縫合（ぬわ）
ひと糸（いと）鍼（しの）りれい鳥の脛骨（ときゆ）を石

うと打ワと自近ふ鍼（しの）のとふ火も
と擣（うす）みよのあく刻（とき）をつてがを結（むす）
つけと縫合（ぬわ）糸ハ魚或ハ海物の筋と製
と身りうと 小刀小兎（ちよ）とよんと
凶モ獨（ひとり）ふ佩（けい）ふ革（か） 蝦夷人のマキリと
身りうと 何處の理（り）とよ咲は小刀の
うと仕立（仕立て）りつとも小刀ハ魯西亞
トも交易の品（ひん）トは其の價長（ひじょう）をトヨノ

もし其書をトヨノシカトシが國より衣
服をうり猩々城ふ白き綿子の衣をうけ
金の縁をうり下ルハルカ服の名國あり小紅革の襪
紅き帽ふ金糸の纏をつナ金ふと縁を
うりを戴くうり光太夫左島のうり
テミリシトシ魯西更人十八家サザウラ
島人四人ともの皮船ふの海羅を擇
向いり島小泊うちとせりま島人

私やトセ鼻烟を乞ふ神よりとサ
テミリシトシある私と慶一溺きたよ
而て四方トシ不の説すとかくい毅
モトトモ是ハテミリシ鴻人の書ふ奸通
セキ半顯く毅ナシトトナサ
トモ実ハシの私前島人トニニギモフ
トモ恩を食ひゆる所と密チ殺害を乞
うるふるの生とれとえ謀の者

四人を鳥銭あくたす うちふゆ
半弓（はんのう） ひかりわらぐ 仇を報せし
サトモドニえまニビヂモフ 玉鳴のうち
トヨノの娘オニイシヒツとよもいと
女あり みりうつ四人の者を殺害する
隠密を父親の方ふすとすとすとすと
んとテテバノカチモフリツツ両人の者を
ぞよひ密謀殺すをり其財光太主（カニイミ）と

詫喝（あきやく）いふおおずく臥居（ふくゐ）すく夜半
主方以（すかた）ての者多びあくオニイシウボ
ふのり光太主（ひかりひやまとひめ）と同士（ともしき）は見え量（あはる）とえ
何事ゆくと仰睡（あひね）すく寝ひゆくま
五人やと娘のうふうりやまと一人、
圓を折（ひし）て不復（ふふく）とはどした一
只一石（いっせき）ううとソレのふうと おな
やうともあくまじやふ三すう

光太史の涙肉裸と曰ふ今已被ひる
息をつくとさうす喰近くからと
小市入来と庭をあよりてわざと考
方お持りりて海ふきて三人の者おま
ましめらす、身のまわりをひらひ
トせじりてうけしまして密ふた骸を
山陰ふ廻しに埋みてゆき
は事ニビヂモフ帰ふのうへ病顯あ

ニビヂモフステーパノカソグコフニテラホツカキ
獄ふりされ光太史等う帰ふのうちまぞ
ウリ獄中ふりてぬアミシマツカキと
救命の恩を蒙りてゐ者りし、光太夫
小市儀吉二人よりイルコツカの有司を
赦免の願狀をせしと云

按ともかアミシマツカ諸侯國ふ載せた
先よりカミシマツカナシの方位海波

の里程リと考フふアレウチスキ諸鴻ホウ
志シ一鳴ヒナギアレウチスキ諸鴻ホウ即ち
セラガラヒふ所謂ミハシアルクミト鳴ヒナギア
細亞シヤ亞墨利加ニ大洲メイジの間マツシアヒ
亞墨利加の近岸アシカにて星散セイサンアヒ但
は北極ヒカルアヒ小島コシマアヒ其名アヒア
さくふりり奥アヒ、蝦夷エホの東北六七百
里リアヒ北極ヒカル辛三度ハリスドの地ジ

又ゼラガラヒふツクニツキの入幼アヒ
頬カブアヒ鑿カツアヒ鯨齒カウノヒアヒ相シマアヒ
明人の圖說アヒ北亞墨利加の人アヒ大仇アヒ
アヒ獲アヒアヒ其骨カブアヒ長さ二寸アヒ計カウ五
頬カブアヒ鑿カツアヒ孔アヒアヒ骨カブアヒ截カウ一寸
計外アヒ小禱アヒ、タリアヒ其功アヒを表アヒ
より半アヒアヒ載アヒツクニツキハ魯西アヒ
亞語アヒ五ラキチアヒシビリ東アヒ

の盡頭ゆく北亞墨利加より僅小一
海峡を隔てたれば其風俗僻りも
本とえをす今度漂人を送る
至り 船舶ワシイロラーフの義
子アキセイサリ者北亞墨利加より
唐々下唇孔りと一上り
トノト考フ北亞墨利加所屬の
地ナリ疑り 坤輿四大部洲

小々々々 亞墨利加亞細亞歐羅巴也
三大洲を涉歴 古來いよ
皇朝小通ヨリ其國の船を遣
還され オホシテ小海年日久矣
治化覃被 遠邦
國家の神威を仰慕 一其を
護送 互市來歎を歎ヒテ
より特小一時の盛事小して又小

千古未嘗有の一大奇事トシテ
カムシマツカ也

○カムシマツカ テホツカとアナチルスカマの
間あいだナキセキ 大地より氣候極めて至
く穢雪深さ丈餘及ぶ九月のひより
雪ナリ四育ナリ津ガナリ六
月暑中ヒヒナリ此方の三四月ヒメ
氣候ナリ一時雨ナリ風ノナリみは

かくに霧露ハシタニ深く常小塊震
多ク土塊大半のみシテ多ク多
海涸れ肉魚蝦の屬ナリ盛りナリ人
打魚狩獵を半ト一絶く耕農の
業を営ム魚鳥獸肉と食料充
おな夏の内ハ多くこうと乾ヒ體
冬の信トウモ土人をカムシマダリトシ
男女も筋皮を衣ヒタモ多くハラシ

唐使からしたりからの皮をりうじ毛と曰ひ
若の都ふ洋アシヤの皮をりうじ毛と曰ひ
肉スジの方と檜ヒの木の皮をひ道トトロ灰汁と
和ハトトロとアシヤ赭色アリシナ裁縫カイフウ儀の
如シ小縫コシナ袴ハラマツアミシマツカの服と曰ひ
領袖口と裾スルハ海權ウツクシの皮を縫ウツクシと先
とバルカとアシヤ圓カク男女モテ小こしと着
今ハ半魯西亞ハーフルシニアの服となりつれより北方
小わざりハシナとアシヤバルカと着た男子

辯髮シムガシと女子ハ螺髻ラキびすアシヤのうを
單祫シムカミのよそよのうと裹ハラマツじ多く穴店
ナリテギリイヂアシヤの街道トトロ六七里每
小驛亭アシヤと夏アシヤ舟ボウをつきくそアシヤ橋
をいぐ大馬アシヤで船ボウりアシヤ宿奉園アシヤ建
もく驛站アシヤ此等アシヤ官所オウサ下多く
本國アシヤ在アシヤの者住居アシヤより商人アシヤ等の風
俗アシヤ追アシヤふぞ國アシヤの摸様アシヤ小化アシヤみる

穴居を改めて屋室を造る者多々ある

按ておせうからどうゆふは北、往古

皇朝より奥蝦夷と稱ゆし北也
より蒙古より衆を徙て黒龍江東
邊より人を移せて其地輒小

の方に大達小様を殺して其南
方末鏡の小北極五十一度三分北の方

卒餘度ばかり土人面色赤黒く面
閣（いわ）く鼻高く眼深く肩（すく）も居
不（ふ）ハ土穴（つるあな）を四五戸（ごよ戸）小（こ）窓（まど）四隅（よのく）
と金根（かなね）ハ草（くさ）を種（たま）し上（うへ）ふ四角（よのく）
窓（まど）を穿（う）ち相（あわ）て亮（あきら）窓（まど）を入（い）ふ廉（りん）因（いん）
ナリ一千六百八十九年（元祐十一年）始（はじ）てかほ
小服（こうふく）屬（ぞく）を今（いま）ハ本國（ほんぐに）ノ一城（じやう）五座（ござい）を
通（とお）まし（まし）く官長（かんちやう）を置（おき）賦（ふ）賦（ふ）税（ぜい）をうそ（うそ）の

つ先近傍の鴉より教導す極論
事より其地の利用を起て本国か
伏後弓しよキヤ和モリトモ

○チキリ カムシマツカの小岸あり人畜
百四五十計の小邑ナリ其内一町ハアクランツ
コイハ属と郡官ニテチキリの役なハク
ボシキアクランの郡官ハカ比丹ナリ

獨子ゼラガラヒム云デギル事カム

シマツカ立城のゆく近來達ナリ之
デキルミシテニ岸ナリ故ハ其地
名づケーリチキリデギル一言の
転りノ北極出地五十七度許の地
ヲホツカ 此地ハ東南諸方海舶輻湊の
埠頭ナリ頗繁盛の地ナリ入此市ふ
舶近多々光太支等を護送の舶此
地より送し帰國の節より處より開

洋防ヤシマガラ

按アシタカセラガラヒムラコツコイハ其地
極リカツ度廣ヒロく具府城北極五十九度
の塊カムシマツカニ化東南の
諸島シマツ船ボウ日出ヒムカ開帆カイボウ
日出ヒムカ其船ボウ也生珠ヒツヅの私道シモジの造ツバウ
处カタ有アリ

○マコツカマコツカ河沿岸カワエダシの塊カム氣候キヨウ極カツ

冬ヒマツも冬ヒマツの間ヒマツ行路カミツの者嚴寒ゲンセンを侵
され肌肉シキブ皆凍ヒムク立タケル耳アマツ鼻ヒレツをあざ
指ヒジを凍ヒムク立タケル足アシを脱ハグり故ソシテ身カラが表ヒラと厚
かよ皮ヒの陽カヤを寄シメムフタヒと表ヒラ熊クマの皮
被ヒ衣カツマツの毛皮カモヒと簾カツマツの毛カモふ縫ヒツたふ
行カムり立タケルのよ御カモヒ兩頭リツウト手ハタハタ入
ふれを向カムふりと鼻ヒレツ下シタおつりと
眼カムし立タケルとすカムまづれ

頬ほまきが下し、副そばくそくも如ごく爛らん
途中とゆうあはいはははははははは
おほきのよもよのよも病庫びやうことも
わざれも室むろ入いり温暖ぬるわゆ
病びかか氷ひのこづこづ小稀こひ汁じ酒さけ
燭ろうと薦すすひひひひ病び牛うし繫く
丁子肉桂とうじにくけいの赤あかを加くわて冷さまに速はやふ病びれ
まき病びは漸せんく小足こくの先さき肉脫にくだ

骨つを露あらわし大鋸おおののこを大鋸おおののこで切斷ちくさん一木ひとぎ
ほぞ足あしを送おもてりねをつきとひくとひく
まき足あしつき手ての法アムブロシウス
又アヘンストルリアヘンエラニアヘン書かふとく
残のり六ろく月げつひより八は月げつに病びれてハ太陽たいようの
餘光よみつ常つねふ地ぢ年とし少すくなく晝夜しよがいのうち
りりきりりりり墨すみりり風かぜりり書かりり
と夜中よなか明あき半はんりりと細ほそく書か
うふよし燈とうふ讀よふあげや

廿九十九地
氷海ヨコシマ 二千四百里
すと其海濱ヨコシマヒ ざばと獸サメ
捨し得スル 千チ 海象カイコ 一束イヌツ 一束イヌツ
一角イヌヅ 得スル 本國ハムニ 建置セキジ 駄處タマツ
都會トクシ 人ヒト 五六百大半平屋タムシ 造ツバウ て
人ヒト 二階造ツカツツバウ 以テ 木キ はらふ
王族ウツブ の夷人エイヒト マコトマコト ラホツカラホツカ
イルコツカの間ミナ 故居ムンキ 男女ヒト 繁榮ブンヨウ

髮シロ 黑ク 眼睛シキ 黑ク 牛馬ウマ の皮ス と 衣
少シ て 身ヒ と 床シマ 長ロハ 僕クル 小腰コウコウ
あくま 家人カジン へ 咳啜カクツバク 以テ 用スル 爪クズ 肌ヒ
人ヒト 貴賤カイセイ と 有アリ 布ヌ の 汗衫カイセン を 着スル 其
家カジ が 基シキ ほく と 有アリ 布ヌ の 汗衫カイセン を 着スル 平ヒラ お 造ツバウ
四壁シヨクヒ 牛ウシ の 塗スル と 漆スル て 四シ 打土タヂ 例シタ
助シタ 处シタ の 木キ 高タカ 床シマ お 送スル て 直シタ 用スル 豪富カウフ
の 者ヒト 木キ 牛羊馬ウシヤマ お の 木キ 千餘頭チヨウ と 羔カウ

者向うされど衣服住居等は賤人全殊
りよすや書ひ西五人トリ古五人ト
而すりつも負富少よりと多少所と
所十三歳トリ教育トモギトと書
リと書一人無家處一處充造トとれ
ふ生計トドキ半半豪富の者アト書
多くわう家教トタクニ量利もこれ
トナフ處ナガリトモ食物ハ野の肉

并木松の木のぬきはて搗き粉ト
麦の粉トカタシ餅ト送テ食
冬の間、物の内よ半壁で厚い塗りの
上よ筆がひれで灌き堅く冰ト云
けふ印有ト麥粉松の皮革を搗
石臼を打リよ其
堆積りて氷寒うと雪深く土堆岩
ト累堅く清々と堆す穿川すれ

歎きあゆ牛糞を以て泥土ふ代（ヨウ）の
壁をす塗り印（ヨシ）造木トシグシブラツテ
并（アリ）夷俗の稱（シテ）りほ印（ヨシ）をりうけりうけりの
酋長（ヤハタク）セキニマージイより縁（ヨリ）ふ紅縁（カレ）の縁（ヨリ）
許（ヨリ）るが國のクラボニキ小相當（ヨリ）りうけ
又別お奉岡（ヨウカウ）より置（シテ）ふの總管（ヨウカン）河（カワ）先（ヨリ）
ヒキ漂民（ヒキヒメイ）を送（スル）一來（アタム）
兄（エリ）グスクタウキリロタナラクス（スル）

少（シテ）なオエシノボロチク（ク）カリ又此東人（ドウジン）
うち小シヤマン（シヤマン）とよとのき（セラガラヒシカ）ミス（ミス）とづるよ
う道士の如き（シテ）とよあと常（ヨリ）の人（ヒト）から
一群（ヨウジン）の如く（シテ）不^レ可（ハコ）呼（ハス）呼（ハス）喚（ハス）
笑しの（シテ）あく（アク）がじす（スル）本（ホン）の（ノ）幻術（ハグセキ）
もよふ曲き法（カクヒ）と行（スル）シヤマンの熊（クマ）りと
馬の皮（ヒ）金剥（ハスル）小（コトコト）生（スル）まと（コトコト）小
そ一縄（ヨウソウ）大木の梢（シテ）走（スル）こと（コトコト）

旅立きなふと光太夫等り凡てうとす

梅ふゼラガラヒ小云マクツコイハ極
出地六一度の地りト土人トマクテト云
レナ河の两岸少すじ性もろひ勇悍
ナリ獸肉おどし蒜の類を常食ト守
りてモル嵐狂ノミ狼と若シ豹
嵐を捕トウト交易の貨物中
ナモマクチマユトマタニ皆一語の

轉キトガ

○イルコツカ は北ハ猶南方ホトトギ支
那の坡小近く氣候リムシニ温寒貳
雪九月末トテ降ニシテ一尺計ガトモ
積ムリナリ國司ハユ子ラル吉ニテラカト
マコツカ等の官長小ケド金キハ格別の高官
ナリ土建りゆきも繁盛シシ豪富ア
者多く百工商賈備ノガシムシタ

人家凡三年餘多くい板屋ありすと長
生屋より皆二抄造りなり寺院七座學
校病院等より市鄧ハ四方一丁半の一
町計小一廊小構ハ留長生屋も瓦も
銅柱入口二方ある官より守把の者
を附ち小商賈等の居住ハ別外小室て
毎朝はよふあつゝりれしの廊を開き
各自賣買をす黃瓦小鄧を鑽(ハ)と

お居小帰未だ貨物ハ鄧お置つけゆる
かく官より番卒を附ねばれ本ゆく
絶く盜賊等の患ガ故小他邦の商
客等ハ金銀衣服等ハ皆此鄧お持未
多く出来り近ニ又ハ右小新鄧
北京ハ僅小十日旅程より清高又シ韓人
が常小此地(交易)小主貿貨物は

茶料胭脂官粉茶冰糖木錦綿布木椀
等なり茶と紅夥^{べにぢよ}、奉國^{むねのくに}、^ととも多く支那
のものと見取^{うなが}す。也府城^{おふしろ}、^と一里^{いり}、^と半里^{はんり}、^と許東^{きひが}
ハイカルより大湖^{おほのこ}、南北千里^{せんり}、^と许東西^{きひが}
廣^{ひろ}さへ不圓^{ふえん}なり。又狭^{せま}さへ^と六
七十里^{しちじり}なり。并^{そなへ}二面小冰^{こひや}、^と冰上^{ひやう}
橋^{ばし}あり。沿^あて車馬^{しゃま}かと通り^と。湖の向^{むか}
小^こキイチカより温泉^{おんせん}。光太夫^{みつゆ}足痛^{あしお}

ゆゑほ温泉^{おんせん}か浴^おと一^とを^とノ^とイロツカ^と
五百七十餘里^{よひよ}温泉^{おんせん}の邊^へ。小^こ宿店^{しゆてん}五本^{ごほん}の^のい
きり大家^{おおきに}かと^と客房^{きやう}かの^の十四五房^{じゅうごぼう}を
建^たき。冰^ひの^の温泉^{おんせん}の邊^への谷間^{こくま}より山^{さん}ふ
客店^{しゆてん}の崖^がの^のも^の、小^こさ^さく^く送^おイ^いかと^と浴^お
槽^のより一^一計^{けい}の^の小^こ廊^{ろう}を^とう^う浴^お
槽^の三^{さん}川^{かわ}ふうち^{うち}は第一^{だいいち}官人^{かんじん}第二^{だいに}平民^{みんじん}第
三^{さん}婦^ふ人の^の浴^おと^と處^{ところ}と^と又其處^{そのところ}より二三

里山奥小塙を出と處の崖の石間に
すす雪の積りあり。かくふ吹せと此
不ふ官す。看守人を以てまつて向て免
は佈ふつ免ノルコツカの城下ふせと販
賣す。一袋重四メ五万文ナリ。是多ハ
海ふ遠き堪能近隣の諸國皆、めぬを
日月もえ。百文の價洞底一文二半也。
監官ハカヒタシナリ。又は湖邊のキムニ

ライより之神僧の遺骸。例年四
月の初法會にてと遺骸を拜努
し遷化。七百年計りれども渾身
わき面貌がたまほうとさりとも本
國より甚崇敬。遠くは地をまき
と被拜するもの常あるもとや

よ

梅ふせラガララふシビリ三州之内

は北極より廣大ガリ、府城の主系
ノ北極五十二度強のザウリ、千六百四十
四年正保元年正保元年、ムルムルト、奉國小服属シ、サ函
の商賈等多く、は北極小豆アリト、支那
ノ貨物を交易シテ、他邦の
貨物は北極小豆ハ移別小價賤シ
トス

○ウヂニスコイ イルコツカの西小豆アリ人有

アラキノクシナシ、イワニペートロダチトヨマコト
ブラツケの祖税、モ処カトモ取れセ
税ハ皆狐熊貂兔等の皮ナリ、一个ミ
二張アリ、又は北極小銅山ミリム、銅
錢や濤、其毛ニ二部、小豆ナリ上を割
ラヂニスコイトウレ下をニテノウヂニスコイト

少

○キシ子スコイ 人數百里計は北極小豆

石草木多ノキリロハ常ニキムツ株
紫小レトトクノ草麴を以テ多々
酒を造モセ

梅木ゼラガラニムニ千七百二十六年
享保十一年のニル酒の名草麴麥甚上品ナリ又
燒酒を以テ枯魚を以テ常食等
○カラスノマルニキ人衆七八百羽ナハベ

カゼウリ

梅木ゼラガラニムニ地牛羊馬を
畜とこれと以テ食料と交易と
土地肥沃ナリ土人農耕ニキミ
セ

○トボルスキイルコツカの西千五百里ウミ
府城ニ市廓寺院ハ山上小村ノ平人
の家山下小村ノ昔はホド小防歎軍を

あひ先々く通りの商旅を保護する
う通國寧靜あくと盜寇のありれりま
る今ハナリムシムトウト

梅ラふゼラガラニムニ北魏の府城は
北極五十九度十二分の北から
五十年天文十一年小貿と達ラリ
那印度古通商の巨賈等此小
令集一數百人黨を結く出来

○アカテリンボルグ
銅山ナリ彼邦第一の銅山ナリ
錢廠ナリと錢を鑄六月ニ小馬小駄セ
ナリ有帝小半地小輪湊一地奇
の貨物河川ナリナリとのナリ土
地ナリナリ殷富ナリと故ナ
人ノ産業をも勉うされと衣食
ふ立トキナリトヨ

と本國小薦^スと又ムラニシヨリ石を産^ス
自爾^{ソノテ}ふくらむ紅緑或^ハ黒斑文^{アラカツク}の^ハ生石
を以て^ス屋室^{ヤシマ}を造^スと諸番用^ス小製^スと理
石の頭^{アラカツク}紅斑^{アラカツク}の^ハよのぞりつゝに貴重^スり
リと錢^スを鑄^スお鼓^{タムラ}繭^ス不^ス可^ス磨^スく^ス等^ス
皆水車^スをりりゆを宏大^スたりとよのあく
最人^ス力^スとしよき功^スを顯^スとひかふ十
倍^スり^ス造^ス工^スの者車一座^ス二千人^スりと
倍^スり^ス造^ス工^スの者車一座^ス二千人^スりと

物^スふゼラガラニム云千七百二十三年
正德八年正徳八年小ペートル帝始^スく^ス建^ス城^ス
建川千七百三十六年元文元年女帝別
テリナペトロウナの付^スふ玉^スと落成^ス
もとより^スは珠^スが多^スつナリ又^ス
山^ス亦^ス小鐵^ス山^スナリ此邦^ス第一の鑄^ス
淘^ス戸^スは多く^ス集^スナリ^ス繁^ス
盛^スの比^スり^スト

○カザニ 人家二千四五百市街の光景頗
べトルボルグふ似たり 街道の両傍小二十
間湯おき小燈籠とうろうと川此堤おきより織七おりしちと
白布しらぬ粧綿けいめん小こそりよしより上品じょうひん汗あせ
衿えりふ遠とほくふ落おちせばれのしみを身みゆす
又メラメラ石鹼せきねんがが遠とほくをせとねりと、精品
りりと

梅うめふゼラゼラガララふ云玉籠ぎょくろうの貨物かものの皆

勿兒瓦河ウラガワ河カワ黒海コクハイ運送うんそうとく都トク

尔格エルゴ

ト大交易だいこうぎょう

とト

鞞革タマゴ

の人ヒト

多くは

地チふ多くあり

あり

○ニデノゴロド

官人の致仕じしき

ト

多おく

王族ウシヨウ

の退隱たいひん

ト

多くは

富貴ふきの遊ゆう

人ヒト

多くは

入いりる人ヒト

入いりる人ヒト

邸てい

の

板いた

の上うえに達たつり

り

ぬ

板いた

の上うえに達たつり

り

板いた

の上うえに達たつり

り

ぬ

板いた

の上うえに達たつり

り

戸と

四千計

戯場ぎじょう

博場はくじょう

おどり

の食事等向くもよろこびめせんき
石川

梅家ゼラガラニカニモモリノワシニ
ミシマ人諾勿瓦的重ナリ人氣ニアリ
移トシムトドクニテノウゴロドト
名ナケレサニニテハ下ヒツノ家
ナリノラニト大成シテキニハ處也
入弟馬源並和蘭蘿鞋等の商客常

かほれかまきし集大入京馬泥亞和蘭
等のノハシのく其國すと奉常す
教法の寺を建たくとウニ

教法の寺々を建れくと
モスクワ 又ムスコウと稱も以古トモ
魯西亞王の都城を建置
ニル宏麗繁華の城タニ 近世ペトルボル
クル新小都城を建トトノハ國王兩都
小五年はく住居のト 光太文が行ト

以ハペトルボルグ小住居ウモスクリハ留
宇の裁處ナキ寺の廟ニ方三重計本
の里本城の前カ大石橋ナキ長ニ四松間餘
數廣宇空間左右木の櫛干ニ施一種
の花紋を周ニリハ柱工をキ
ハラマクナレモ櫛干もリ低ニ是ハ
古風の制ナリと近來の制ハ皆鐵也
櫛干ナシ高ニ三四尺许ハ造ア花紋を

カナリノ繩子細く金を嵌シテ有
河の流ラク多く手印ヲナシト此
のあ極ムトニ青碧ナシト紅の深色他不
のものナシトナホ技忍ハ美リキトナ
又ゼンスコイソーボルトムニ尼ナハ大门の
上カ太自鳴鐘を置ケ遠ケ板モナホ
外ナリ又ナホ看守の者木銅錢五文を
貰フ門の下木登ナシトアツナシト許其

量時規の徑^{アヤマツチ}二尋餘^{カタリ}されよべと
ボルグの、よのぶくわれ、稍小^{ナリ}也
堂の中央^ハ大^シきり銀の寶蓋^{カヒ}を掛^ク
セラガラモ^ハ重^キ堂の側^ハ大鏡^{アヤ}一門^{アヤ}
千二百六十枚
長^シニ間半餘鏡腹^ハ内^ヒ入^ス仰^ハ即^ハと
手^ハ伸^{ハシム}お猪^{ハシビ}さき^ハ支^{ハシム}と
よか屋^{ハシム}を送^{ハシム}雨露^{ハシム}を^{ハシム}人明
の圓說^ハ大鏡長三丈七尺一發用^{ハシム}葉^{ハシム}石^{ハシム}
可容^{ハシム}入内掃除^{ハシム}と^{ハシム}よのび^{ハシム}也
又大鐘^{ハシム}

寺中^ハ小福^{ハシム}を真^{ハシム}と^{ハシム}堀^{ハシム}と石垣^{ハシム}
ノハシム^{ハシム}少^{ハシム}有^{ハシム}と見^{ハシム}物^{ハシム}かすえ^{ハシム}
其大き^{ハシム}小山^{ハシム}ノハシム^{ハシム}總^{ハシム}許^{ハシム}小隱起^{ハシム}の花
致^{ハシム}ハアル^{ハシム}神^{ハシム}の外^{ハシム}小年^{ハシム}碑^{ハシム}と^{ハシム}の有
漫滅^{ハシム}と分明^{ハシム}と重^シハ二千五百^{ハシム}ア
トマリハ^{ハシム}アウト^{ハシム}は^{ハシム}の四貫五百冬^{ハシム}あ^{ハシム}二千五百^{ハシム}アウト
一年^{ハシム}奉^{ハシム}奉^{ハシム}火災^{ハシム}小羅^{ハシム}塔^{ハシム}倒^{ハシム}金^{ハシム}ノ^{ハシム}千^{ハシム}子^{ハシム}
モ^{ハシム}禮^{ハシム}モ^{ハシム}小國^{ハシム}の^{ハシム}大^シき^{ハシム}鐵^{ハシム}の頭^{ハシム}と^{ハシム}く
碑^{ハシム}破^{ハシム}世界第一^{ハシム}の^{ハシム}塔^{ハシム}又明^{ハシム}人
の圓說^{ハシム}大鐘^{ハシム}以^{ハシム}搖^{ハシム}不^{ハシム}撞^{ハシム}搖^{ハシム}非^{ハシム}三十人^{ハシム}不^{ハシム}能^{ハシム}と^{ハシム}い

鐘なり。門のしきし小幼院葉子を養育する所。其他病院十二处。學校禁局。作院等數處。河諸國の商客多く來り集まつる。土地も巨富の者多々。國王此地ゆゑの實。本城の外小別墅二ふ。又避暑の殿だい。ナシキナトウペトルボルグにて。七百七十餘里の間官道を用。道の駅七八間置。小河あり。屈曲くわくす。一里每まい

高さ七八尺。計十丈。櫓やぐらを建。里數さとを記す。とほ北の宿店。二層三層。よそえきひがり。内閣うちくわく。築つき。よし。たる。木。ゆき。宿。不獨ふく。都城みやこ。亦有宿。とアリ。華嚴けいげん。ナトウペトルボルグ。あり。ナトウ。

後事小セラ。ガラニムムスクワヤ。

ムスコウも餘も本國の中土シナにて
北極出地五十五度三十六分の北ヒツキ千
二百年正治元年の以テより 魯西亞王の都城
を建置ヒラフと歐羅巴洲第一の大城ヒラフ
周圍十餘里人店凡十五萬百工商賈備
りありとひり 交易の大場ヒラフ六
千餘處ヒラフ千七百十八年享保三年小ペトルボルグ
すしの官道を修ヒラフ其間か二十四處の

驛站ツキヤをあさ 驛馬ツキマを常小馬二千匹を
備ヒラフて行旅ツリ小遲滞ヒツシなし夏
の間ヒラフ車カとけらわのそい様ヒトコトを貞あく
此方の路程ヒツラフ二百里餘ヒツラフを三晝夜ヒツナク通行
もととさ

○ペトルボルグ 魯西亞王の新都城ヒラフ極
うと豪麗ヒヨウと窮カハりて創建ヒラフすヒタチ子ヒコと云
大河ヒラフの間ヒラフ小流ヒツラフとく三月の爲ヒタチと

地方二里餘せうの
人衆じんしゆ皆碑かいひをり川と
四層よじゆうふ御成ごせいと官民かんみんの家居きゆすみ害異えい
街道こうどの正中まちゆうが幅十間計けくの溝くわを通とお一列れつ
の河かあひを引ひく用水みずより 左右さゆうの岸きし
の大石おおいしを琢なぐて疊たまごみそり こすりすい九尺くわく
四方よのうの石いしりれ、兩中りょうちゆうかす溝くわの岸上きしやうを通とお
といがーといがーの居濱ゐなはのつけつけしり 二十
間せき每まい石いし締しめしめり水みずを汲くむとま

又两岸ふたぎふ三丈さんじやうと三戸計さんどす。鍍ぬきの欄干らんかんを施ほど
一鉢鑊かづきわんの花紋はなもんを金かなと緑みどりの
精巧せいこうなり。言語ごんごの多おほいと
街まちの兩傍ふたわきおひ二十間さんじやう每まい三間計さんじゆう
銅どうと六角ろくかく小造こぞうて積のむとしもと
燈籠とうろうを一いつ基き、石いしと一方六丈ろくじやう許ゆき
傍參差わきさんし小建こたてす。十間じゅうじやう每まい一基きす
暮くろりし、蠟燭ろうを點ともハツ用ようすとま

江の水又、後は漁火やつれど、彼
此ノ消滅も、通宵砲打の行為
者、燈籠を用ひ本より溝水に便よき
木橋や、石橋、木橋より梁柱を用
ひ、两岸より化せし中程を、
吊橋かと子の大河か、浮梁と名と
えうちり川より、その長さ百
二十間其制、五百石計、積重きがゆ

船を積す勿不救艘排列、舳艤
ト、大鍊錨も、二門をあらうと
かけと先よふ角材を以て、其上
厚板を、く橋の両端ふてのと夜
半より、日本と標し、深窓の左右岸
かねて、船二艘は、餘すと通船の事す
入船、左のあたリ升り也、船、たの方とも
うる船の大小約、銅錢二十文を税

とて明六ツ以より夜の九時すれど通船
下り巻復半弓まきはあもしろ者もの小舟
うち酒と私酒十五錢り、王居くわい子こ
の南岸みなみのに建たて廣さ二十尺はしこのを
周圍うりゆふらめ地ぢ高牆たかつき等などを設おきて卒そぞ人の
擧たて小事ごとのちりちりたりキり、但守門の
者常つね小鳥ちばね銃じゅうを執つかて護まも衛えするのを也
本殿ほんてん碑ひ小こ五層ごそう小こ墨くろりりナな

この製造せいぞうの妙実めうじ小こ思役おもひわくの爲ため不ふ可かり
いふ様よう大鏡だいきょう二百五十面めんと排列はり一團だん玉ぎょく
誕辰たんじん小こ七度しおどは放はなり玉ぎょく王居くわい
並ながじと石屋いしや一座いちざムラミ大理石だりいしの類を以もつて
四層よのう小こ砌底せきていと長さ六十間計けいりつともと
精巧せいこうと極きわりうゝ是ぜ當今女帝めいてい即位そくい
の初はじ一大臣だいちん小命こめい一羨石わんせきを集あつりと瞻ひと
禮寺らいじを建たてしむられ、み彼大臣だいちん私曲わいく

かずえまどい造らひて其石と
おのより邸宅を済きり中霧きあ
遠流ふ處とま其都ハ藉没せられて
官邸と彼不以尔造り改りそ
女主の別殿と改め甚温氣
深くにて鑽一たゞ四壁亭
皆錦繡とりとて其外も温

氣ふともゆく墉高せしと其義
とすと積るゝれ總御の外幕
築かずのよ落成せ二十六年
あるのりびつしるや後再び有て
別ぶ石寺を建せらばつま大方穴
餘分精石を用ひ造工の者數百人を集
エセしとトトもか十四年がれ
すと落成せじとすと

又王右の東の三方ニ丁計メタカウ小花園シモガエノ廣
ニ三丁計長ニセ丁計ミサカウの道傍マツリに樓閣
臺榭テイザイをもつて御名石をり川と里安
の人形を造り道の両側リョウゼツにすりそて
多く噴泉スカリゲを造りよく景致ケイジをたど
昔は花壇の形を六稜八稜或は花壇
又が草亭の如くふつて其内小徑
花木芳草を植シムすが今、形を

定め植シムす圍カクの徑カタマリを曲轉カクラン
香をりりしく如くお造シムす邊マツリと
せざきすよ遊シマフす中シモにて花園中
方七間計の亭向カタマリ深深柱壁カタマリと
ばかりに種々の圓をうつらと造り
其外鳥羽花木の類シモをことく見ミム
りゆくはうと飾シムすよりうと奇
工藝カツギめあく向シモす生シモせずき

其代際學校幼稚院等數處有之又隨身軍
士の居三不^レ一不^レ常^ニ人馬四千
餘を備^ヘ又深潔の南のりてふ三
間^カ餘の大岩石とす乞周^ル小石欄と構え
石上小中兵の賢王ペトル馬上の像を安
置馬蹄^ハ大蛇を踏たる像ナリ先是
ペトルボルグ草創のころペトロゴロフ^ラ小
毒蛇位と人を害^ス其地ふりて者再

帰^スト^レ本^レペトル^トキ^トト^レキ^シ
馬^ハア^レ被^ハ堵^ハナ^レア^レ大蛇^ハ畏^ハ縮^ハ
動^キ半^ナ脚^ハ即^ハ馬^ハ蹄^ハ不^レナ^レと^レ臨^ミ殺^ス
其^地を以^テ國^ニ固^ムト^リモ近^ミ御^ミ神威^ハ
セ傳^ヒ稱^スト^レ臣^ハ伏^スト^レシ^ムカ^ム
多^シト^レト^レ像^ハ大^シ一丈二三戸^高
銅^ハ以^テ鑄^ス成^スト^レ當今女帝^ハ造^ス
さ^シモ^シト^レ處^ト臺^ハ金^ハ大^シ石^ハ金

字カタルペトルペルライ ペトル第一世
不ト呈 エカテリナ第一世 千七百八十二年 天明二年 八月六日
日ノ影跡 ソリノシタツキ オモニ王店の向ハタハの
河中小靈屋 コトコトヤ 烈ハリ 大河也 オホシマツ
の廣 ハラハラ 一里 ヒロ 一丈 ヒヂ 上 アシテ 二里
餘 ハサカ 壱 イチ の廣 ハラハラ 守計 ムツケ 小柄 コハシ 三丁餘
キテセリサカ 袋綵 ドモシタツ 六角 ロクコウ 造 ツヅル 拝 ハタハタ 即ち
の至城 シテシタツ 今 ハシマ の王居 ミササギ 遊暑 ウツクシ
之處 シテシタツ 之處 シテシタツ 周圍 スラガタ 小高 コトコト 土牆 ドモシタツ

築 シタツ 四方小門を開 ハタハタ 表ミハラ 方小大門 コトコト
門の上ハタハタ 塔のとハタハタ 高タカシマ 送 ハタハタ 其上ハタハタ 大
自鳴鐘 シテシタツ とかく其大タカシマ なり ハタハタ 言語 ハタハタ 及 ハタハタ
セ ハタハタ 二十七里 ハタハタ 関 ハタハタ ツワルスコエセロト
又 ハタハタ 鐘の音 ハタハタ 三里餘 ハタハタ はゆ ハタハタ せ
車の大きさ ハタハタ 本の水車の輪 ハタハタ ふるんゆ
又 ハタハタ 門の内 ハタハタ 方衡木 ハタハタ 上 アシテ 黄 コトコト 壇
淡黑色 ハタハタ 本國の號章雙頭の鷲 ハタハタ

画ノ後門の左方ノ大銃五門ノ五月
朔日國王ツワルスコエセロホイト九月朔
日還ラホマシハ日このせあ、こう
大銃ノ一高ノ祭ノ幻白青横文の旗を
達ノ又日没ノ大銃ノ祭ノ旗ノ
おうモ旗竿ノ高ノセハ太旗ノとれて
大なりきのノとノ大門の内ノの方
ふ様ノヘトルの像ノ安ノ先ノ等身

の像ノ左方の手ノ大キノから鑰ノ持
たケ仁の義ノリキノ詳ノセハ元彼邦
の貴人ノ腰ノ鑰ノもしれの鏡ノ鏡ノ色ノ青
鏡ノ小ノ本ノカマリヘトルノつノハ
國王の世継ノき付ノは家ノトノ鏡ノ開ノ
ほ人ノ常ノ鑰ノおうりノ又ノたノ方ノ
塔ノニヨライノつノ神僧ノ像ノ安ノ面
金ノと衣服ノ銀ノゆノ鑄ノり像ノ

坂の方小ハペトルの廟アリ。美石ヲ高
く疊アリ。石碑の文ハ金を嵌ヘリ。上
塗シムの屋を造て。下ハムニモ
石を敷ケ。屋の四方、瑞理殿を嵌
外ト。拜ヒル所を設ケ。靈屋の北の方
にモ陽ト。太子の殿ケ。碑石をり。六
扇小造。奉られ。未小住。り。女帝
宮を同。と往す。小。深梁の向シ。ワ

シレイラストロワトヨス。日本ハ街衢を六傳。而
東の方小外國商人の市店。の。深梁の北
宝庫。ケ。生肉。ふろあ。送。ト。人頭。煎
耳鼻。手足。牛馬。羊猪。大麻等。ケ。六七月
ニ。宝庫を開。ト。諸人。小縱觀。皆。もし。是
ル。ペトルの送。ラセラキ。ト。アサヒ。ト。洋
島小法場。ケ。先ハソーダテ。班平。以上の罪
を犯セ。ト。之を罰。シ。外。クリ。卒人。獄

乞ひ刑を行ふ。王城の東の方
アレキサンドル子ラスコニトシ。尼寺河ノ此
寺は諸堂の造りと化の寺と異不^{カナ}て
莊嚴りつよ美を呈す。寺の内
方三四間小造とし。庫の如きものより
四方を軍士四人守^ガ。鎗を執^{ハシム}。昼夜^{シテ}守
護^{ガシム}。國王の遺骸^{ミサハ}を歛^{ハシム}。又西の三ミツ丈の間
うち外^シたり。ナリ

草木を養ふ。薦室^{イリ}。一稱小造^{コノマ}。三間
小曲^{カク}。長^シ二千五丁餘^{セシ}。餘^{セシ}方の高^シ。大
木を藏^シ。草^シ。がれいの草^シ。ナリ。草^シ
く。下^シ。室^{イリ}の下^シ。一重^{イチヨウ}。北^ヒから
常^シ火^ヲ焚^ケ。升^シ津^シ。安^キ。以^ハ候^{ハシム}。測^ム
火^ヲ。火^ヲ過^カ。肉^ヲ聞^カ。氣^ヲ漏^ム
も。と。總^シ都^ノ。うら^ハ萬^ノ物事^ヲ
詮^シ。ナリ。中^ノ言語^ヲ

のまよ歎あわうよとばふ僅九ヶ月停留
路マサニ本丸しのえのアムハカリ百分の一
あひだまふ北洋より外ハ湖ぶれの概略也
揚マサニふゼラガラヒムモ北ハリシイ列
リマヌインゲルミシラントより千七百二年
え福十小初マサニム北ふ王城をさは是る
五章
百五十年前小雪條重マサニトキ北を侵
奪マサニトキ今年再び奪マサニトキ

たるふは都城マサニを建置マサニトキ
がアタマアタマペトル創建マサニの北ア
ペトルボルグと名つて北極出地六度
の地マサニヒンランドの海灣マサニトキを
りと北アラトガ湖マサニ子ガ湖兩湖の間
の道鹽マサニトキ大船の運送マサニ
輸マサニトキと糧食マサニトキ常ふ之マサニ
交易の便マサニトキありとくよペトルの

命よりと千七百八竿享保三年を起
西湖の間十六七里此方の程と大
船の通じを通じをかく鑿開カツイハシし
元二十四年ヤマトと號ヒメノと第ニ世の女主アリ
ナのけふゑとく成就ヒサシキも開河の
丁失日ヒタチヒ小一萬四千ヒヂラ丈不
諸物の運送トモヤハシ小ト國殷クニイシ
小民富ヒトミツと近隣ヒツヨウの篤澤タカツバを蒙モカら

志の萬世の事業シテの才
懷澤カイザツのゆきよを仰アシタスる者有アリ
元末生ヒタチヒ子ヒコ河カワとカタシ多翁三月
の鴻カクラ左シタ本城のり處ヒツシテヒシ子スラ
又アリセシ島シマとシタ本城ヒンジ外廓エクダクを六角
造アリれ即ち本多ヒンタ第二の島シマとアド
ミラリツ島シマとアドミラリツハ官廳ウツラヒを
アドミラリツ政事ヒツシトトと議ヒツシ廳ヒツラヒを起アリ

設け故小名は廳の外構
と五角小造より是都城の圓小船藏入み
而も避暑の殿^{アシカニ}_{本又か云}第三
ワシニラストロワリ_{王城ナリ}街衢^{アシカニ}ナニト内
潔潔^{アシカニ}カニ^{アシカニ}二島^{アシカニ}通^{アシカニ}也ル
エカナリナペトロウナの造^{アシカニ}モ^{アシカニ}不^{アシカニ}
アキサンドル子ウス^{アシカニ}ミヌキア
ペトルの遺骨^{アシカニ}を廟^{アシカニ}女主^{アシカニ}サ^{アシカニ}左ト

銀棺^{アシカニ}をつくりて不^{アシカニ}節^{アシカニ}をも^{アシカニ}き
一^{アシカニ}寺^{アシカニ}の形^{アシカニ}ハ雙頭^{アシカニ}の鷲^{アシカニ}が
アシカニ中堂^{アシカニ}ハ鷲^{アシカニ}の筋^{アシカニ}ニ^{アシカニ}志
塔^{アシカニ}ハ西^{アシカニ}の筋^{アシカニ}左^{アシカニ}右^{アシカニ}の堂^{アシカニ}ハ翼^{アシカニ}が
故^{アシカニ}小他^{アシカニ}のすし^{アシカニ}造作^{アシカニ}のりよ^{アシカニ}大^{アシカニ}木^{アシカニ}
墨竹^{アシカニ}生^{アシカニ}方^{アシカニ}二里^{アシカニ}許^{アシカニ}_{双方の里數}人^{アシカニ}家^{アシカニ}
千餘^{アシカニ}ト^{アシカニ}

○ツワスコエセロ 國王の別墅ナペトル

ボルグより二千二里直道ありと廣き八間幅
平うすり石のしゆにて 五月朔日より
九月朔日まで國王ま致ふ遷りす
其間、官署は北城に在り候ふ事ありと
國事大小をまづま候うと判断矣
リテ本城よりモ遠くと遙のたゞ家
二十間赤玉石の燈籠と山川高さ五
間計ムラニ石うと種の色を

合とく造奉り 蓋火函の形ハヤのみ
は方の不燃量ふかくと本サ
柱圓シ一ラムと 基ハ角石サリ三
段小組あけ上の底ハ赤石中ハ白下ハ黒
不サリ周子不櫛干を施セ皆柱の
裏石をりいと 造れ又一里毎小石
碑を立て里數を記セ基赤白黒
のふとそよすとて此も三段小置だ

高さ四戸五六寸碑の高さは大抵相同
造工精緻と極めて良しも又鍛也
別墅の入口は鐵門より扇門金手と縁と
門扇の廣さ三間計門上小石
額をうけ金字と以て正カテリナフト
只と書く後園の門は石門のみ
扇色の石をうけと組物より
先ハキニマードボクシキント黑者の造り

石柱の
年版記
ボクシキント黒名と刻
たまつゝ門のた右の牆は跨樑と柱
大石ふと造り其間と石柱と柱子
小組九尺幅深柱と跨樑
柱無段もありふつた
堅固なりかえり此燈籠様碑石門
の造工費用夥しき事なり落成

の後女主貯と以此塙ふあり。費用の萬
を用くゝもの多きひ笑ひといひより
門より奉殿との間一里計宮殿五層
なり此ふより光太夫ゆゑ女主小拜
謁路。此殿の守三層。庭を
廣さ二十間計長さ三十間餘日。早晨
女主はよ寝かせせられ。内は鮮新
花草を植へ。あと日暮れ。見

りよ半ば。これアシより人の詠うて
諸國の花異卉をあらわすもじよすと断
え柱礎たり。合抱の木を二
许多植へ。とれ庭の下ニ妙造のあ。小
うち屋脊の上に平小。とて庵了
を起。其人少く。或いは目
ハ假山池あり天工と大隼。計ふ。先づ城

池中少多水神と列神の車と造
れ池中少島と稱と櫻閣をもとと池邊
の鶴鶴孔雀は綏難等としとて輕
の鶴禽異鳥を觀る夏の間皇孫ち
は池より度々観游の趣を得て園
の入口より池をさへて百年間計の不
名の石を小ムラニ石すと造てより石
人を達川臺のさへば尺計人形、

男女裸體坐するも生々
有或ハ跨踏セ一状等り仰御可也
院外すよりは化され精工は
ソシノリナトモ甚んと不厭
一且何とり、うそきみのつき
あひとて又此地ふ巣園
周も三里餘るを玉牆と塀とからじ
主角木柱の筋畜と巻ひあら、象

ヒリホレル小春、ひまくト、トは園當今
王カテリナの閑かきト、ナリト
按、シラセラガラニムサルスコイセロ又
サルスク、セロ、此地、近ニ有、新小閑
きたれ國王の別墅也。千七百五十署塞、
小太ふ、アレ噴水、送、添、クル、
景物、と、と、と、け遊覽、小備、サルスコイ
セロサルスク、セロ、併、小一語の轉、ナリ

○夷俗

梅、シラセラ、西亞、小服屬、もる處の夷俗
お、ト、シ、五十一種、の、因光太夫等、親
見聞、シ、の、僅、小數、種、ふ、と、と
シ、ト、シ、其、人物の、殊異、シ、而俗の、不倫
ナリ種、の、做、詭、シ、考、ア、金、考、
シ、ト、ト、今、シ、西書の、中、小考、
而、所、シ、シ、の、愚管、既、後、小、附、シ、

化は名同のみを紀トシ。以降

○ロシイスコイヲス。ボタ即ち本国のことを
ボルマキ

○左ホンスコイ 其堪洋りとモムスクワ

ペートルボルグ カメンノラストロワ等の奴隸ハ
多く此人を冠する男子ハセリトウカ服の名
圓形
の如きと奢女子ハ本国の脇小異なり本

さす白き布ふ白き浮紋を織り悦む
川と波を表し

○ ホウカラ

子ミツニシ

チララ
ドヒツン

ケーラ

即ち厄カ西亞の人々也 黑奴也

鼻仰き唇反りと色甚紅當今女
主即位の明年ペトルボルグ（交易小至
シテ之の奉國人と博奕の後小爭論ふ
かじゲーカ十二人かどが國の人四人を殺害
官制の都さへ即けふ之の者も捕つかつて死
刑けいふ行人こうにんと爲なすを女主めのめ助たすけ
旨むすびを余あらへんあらも人ひと命めい小係こくせ

主科おほされ閑まな小送おひと四よせよとほし
りりりちふ太お者もの大助だい余よ守まつと
余よせらせらりり千五百枚まい萬まんりと十六
の者ものをゆう防ぼう一いはノイイコロトこ宅地
をうり日ひこのそりら人ひと無む小銅とう錢せん十五文もんを
管かんを送おひと當とうをりこ書かをもく石いしつて烟たばき
累たまし腰こし小繡こぬとシビリの婦人ふじんお賣うり

博士今ハ男女ニル小魯西亞の被^{アサヒ}を着^ス
○アルマ子 挟^{アシ}リム即^{アシ}亞爾默泥亞^{アーモニア}ガ^{アシ}リム
地^{アシ}亞細亞洲の最西小^{アシ}ウ都^{アシ}爾格の
屬國^{アシ}ナ

○左ホニ

○エステリマンニテツア

○リランツ

○ロパリ

○ペルミキ 樹^{ツノ}白爾米雅^{アルミヤ}カ^カ地^{アシ}
シビリの隣^{アシ}リム^{アシ}ク^クスラウ^{スラウ}の北ニ百三十
餘里^{はるかの}里^{アシ}校^{アシ}海^{アシ}と^{アシ}葱^{アシ}と^{アシ}薑^{アシ}と^{アシ}
制^{アシ}也^{アシ}乞^{アシ}也^{アシ}生活^{アシ}也^{アシ}よニ方^{アシ}

○餘人

○チリマン

○モロワ

○ツワツ^ニチノゴロド^ノの邊^{アシ}ナ

○左レミナ　歐羅巴シビリの塊カタマリのみ頭
の髮カミあり本國の人の如く衣服ウエアハセリ
トウカトウカ少シテ似シテ短クニヒ腰ヒダハ幅カタマリ一呪囉
呢ニヤと着キルせた多タチ兜カブツ羅錦ラスキンの類カタマリ
毛錦ウツカの常ヨリセトトロ護領カモシカ腰ヒダハ幅カタマリ底シタ
アリトト歸人カムイハ短クニヒ腰ヒダを着キルく賤シナギ
之シテの衣ウエアは裳スカートと云ウムへ一月イチゲツ小縫合コシナフ
トウ布トウブリ浮利諾布フリヌガタ 亞麻布印花布インクル東

額カブツをゆりかう悦エキてひく頭カブツを裹マサニし

○タラキニチノゴドトヨスラウの間カタマリ本
國の人ヒトと難シテり乍タタキ男子の股ハセリトウカ少
似シテ短クニヒ紅喉囉カクタス呢ニヤと胸ヒザと背カタマリ多タチ
模モード倅カブツと縫シナフて身ヒトシと飾マサニと婦人カムイハ本國
の格カタマリふきり別カタマリ小裳スカートを着キルく衣ウエアは
多くかざりカタマリボタニヤ施シナフト白布ホワブを砍カタマリと
頭カブツを裹マサニの上カタマリ木カツラを綰シナフとすカタマリ倫ル

送り鈴又ハ珠玉の類をかけ候るを
其状より之をうへてあざりと云

○ウタクリテイ

○タミラ 即鞶鞬タマシ 大頭鞶鞬タマシ 剃項タマシ
一寸五分計タマシ 剃節タマシ 三川ミツカワト組
ト後タマシハ垂毛タマシ 髪タマシ 一計毛タマシ
小き笠タマシを戴タマシ 衣服タマシ 狩タマシの皮或タマシ 喋囁タマシ
わく長タマシと僅タマシ小腰タマシと云ふ女子の衣服タマシ錦

布タマシと身タマシの長タマシと身タマシ小腰タマシと
そりつら喧囂タマシ囂タマシの類を浦タマシ 戸外タマシと
廬タマシと腰タマシと内タマシに入タマシトボルスキ近傍タマシト此
不被タマシ小散居タマシと其タマシ官長タマシカサニタマシと云
官タマシハボルコウニカナリ 衣服屋室タマシと云ふ魯
西亞タマシの制タマシと身タマシタミラの袒視タマシ皆此寢衣
の方タマシトアリ いはうと本國タマシハ送天今タマシの
官長タマシの書タマシ本國タマシの人タマシ常食タマシハ多く

餾飪レモニナリ 制ハシは方カタと同様シテアリ 牛乳ウロコ
蘸スル一食ヒヤクミツの賑人ヒヤクミツノヒトの如シテ小使サムライナリ 塔壁のす
屋室の部又詳窓カヨウマツの様シマツナリ 但烟閣シヤンガク又
本國ホンクの如シテ小造サモシナリ

按スル小韃靼クダラナリ 亞細亞アジアの北陲西キタヅシキの
方カタ古カシ小歐羅巴ヨーロッパの據スル抵シテの總
稱シテナリ 近海カシマ三重ミツノ一一分ヒサツ魯
西亞韃靼シニアクダラナリ 即ち本國ホンクウシビリ

又稱スル者ヒト、五國ゴク一イチ江エカ支那韃靼シナクダラ
又シテ黑龍江カクロンカウの北ヒタチシビリの據スル長城カウントウ
沿スル星宿海セイシュウハイの北ヒタチ小亞西シナシ也イ
一分ヒサツ特立韃靼トリリクダラナリ 南ヒタチ百鬼衣ヒルル亞莫アモ
見スル壤シメ接スル 東ヒタチ支那韃靼シナクダラ小抵シテ
西北ヒタチ歐羅巴ヨーロッパ境ヒタチナリ 里ヒメ小云シム處シテ
又シテニラシテ特立韃靼トリリクダラの種類シヨウリ也イ

○ナガイツ

○クニキ

○トルコメンツ 挿ノトトルコメンツハ即ち亞爾川
黒泥亞リ

○バギリツア

○キルギツア

○ブヨリツイ

○バラビシツア 河ノゼラガラニム云バラビシキ
イルテス河の两岸ふら々打魚狩猟を

○カチンツア

○テレウチ

○ベウチリ

モトト 畜産を養ひて生産も

○マクチ 又マコト 徒歷地名の部 謂也

○ツルカシ 挿ノシルカシ一ナリツア一ゼラ

カラド云地ハ北高海ミ黒海の間ハ之
幅員百二十餘里双方の一ノハ奉國小属

一弓、契利牟都原格の北
耕農を業アツシキ、又畜産を営み其
の歸人極りて豪傑ヒヨウセキと常々
形容の衣装を翻ハサシ、珍タレい飾り
良馬と馬と最健駿ヒツケンスン價カニ
りと甚貴シキ

アバヒジ
セキシナツ

○キスチ
モニコウチ

○カウニキ

ウニキ 梅小葛尔莫奇ナリコウ
ランテントルユ書ム云ヒハ勿尔瓦河北高海
の沿岸小ゆリ地氣甚寒ノ故年
冬のニシテ畜産を以テ畜産
モと馬肉を嗜ムトシ生ウムニル
食ムトシ

ブラン又 ブラツケ ラホツカトウル
ヨツカの邊すと 散居と色黒く 頬毛甚
やるべー 男女皆辯髪 ゆく 女子真
他髪を續 縫 とくりつとも長く縛
垂れ下り 絶く 湯浴湯浴の金垢真
穢かと 近づく 金くのハ 牧羊の
皮をねりと 屋ハ八角小造と甚低
く極りと 程

梅木ゼラガラヒムガラテンキアガラ
ハ濱ふら木枝を編く屋と造る其
かづり六角或ハ八角りう多く牛馬
を畜し且常々屋を移と一而
止す 三月よりハとくブラチゴ
ツテ ブラン皆語の野と一サ
○サモマダ 梅木即サモイデンサ
セラガラヒムは地ハ永海沿岸也

北極規功小係りと極りと江寒
の地サリ玉セイレナ西河の間
のうち人物もうり殊異サリ其子け
ねらと縷小^{ヒメニ}と醜陋^{アラハ}ナリ半云
可^ハと面危焦^{アラハ}苦^シ目細^ク頬^ハ
膨脹^ハと氣^ハ含^ム如^ク夏^ハ
魚皮^ハ衣^ハ冬^ハ獸皮^ハ着^ハれ
一枚のすまゆと^ハうるさく身^ハ

まよ^ハ歸人^ハ肉^ハサリ土穴^ハの内^ハ
す^ハ剛^ヤ義^ハを^ハ内^トと^ハ脰^ハ胸^ハ筋^ハと^ハふ
枯^ハ魚^ハ獸^ハ肉^ハを^ハ常^ハ食^ムと^ハミ^ハ少^シ
と^ハ少^シ先^ハ茅^ハの^ハ衣^ハ類^ハり^ハ

○コイバリ
○カラギチ
○サヨヒ

○トニグエ^{トニグエ}の両邊^ハあがく人物

色黒く眼細く風俗ハマコトより
極うとく男酒なり汗衫を身に着て真赤
皮の衣を穿て又腹を透すて獣皮を
透すて帽の如きをもて透すて駄の負せて
彼歩ふ遷移すと小便のマコトブラック
トニグシトシ小文字教法ナリトシ

接するゼラガラニム云トニグシハ鼻いりく
目細ト小児の肉小面小青黒の線を

以て放様を繡ゆも小児どうりに痛
楚ぶたゞモ帝位ももと争ひ古ハ從
身小縫なれども今ハ面もも小縫
ガリスの仕事小玉工拙りとぞれ
より今漸く小左團の化小うりと
さうの半身やみつるも光太夫等
い面皮を繡トソラノハ元するよし
又云常小物肉をナシカンチイル郎

レシナリ、毎朝の皮を衣も着て多く、十
九译サリ、字加教と奉崇、佛教の事と
云ハ大抵一夫而歸、或ハ三四人を娶る

○ ユカギリ 氷海沿岸（シハジンケン）山河（サンゴ）

○左クトヌ左クチとふ字キリフホツカ
の間小ぢり即ちアクララニスコイリノ風俗
カムシマタリカムシマツカの人をわれれ——男子

○コリヤキ 又ユレイキ 楠ノ木ゼラガラニ
江中を戴く穴居少く 地盤ゆる屋室の
窓の魚皮小とくしゆすゝ 瑞理版用
れどのゆイ イヂガの郡官の所轄也

其地極りと廣り土人常ふりの
居處を遷移し定住の処す其
俗りも猛勇小も暴戾也

人死としハ多の屍を焚く多レニ
チル^上と産と年々其皮一萬
ニ千張と被ふ也

○カムシマタリ 沖底地名の部が詳ります

○クリサ 楊^{シラセラ}ガラヒムクルリス
諸嶋ハカムシマツカの南岸より西南の
方小連綿^{ミヅシ}もとの著^{シテ}きの二十
五鳴^{アラシ}の渦^{スズ}の内^ノハ數^ヒと云

カムシマツカ小附近^{ウキシ}の島^{シマ}ハ皆曾^{シマ}西亞^{シナ}
後^{アヒ}ノ遠^{アヤ}くとうれ^{アラシ}鴻^{アヒ}ものく
曾長^{シマ}り^{アヒ}く理^{アヒ}く且^{アヒ}
日本との交易^{アヨシ}を事^{アヨシ}めと云^{アヒ}
トシ^{アヒ}ま方^{アヒ}く蝦夷^{エホ}の千島^{チマ}と稱^{アヒ}
すもの^{アヒ}金^{アヒ}

○アレウチカ 抽^{アヒ}即ちアレウチスキ鴻^{アヒ}
の人^{アヒ}云^{アヒ}漂^{アヒ}人等^{アヒ}號^{アヒ}と漂^{アヒ}客^{アヒ}

セイ アミシマツカルモ諸國中の一國
ナリナシム上ノ詳シモ

○魯西亞通商五十二國名目

按ノふ魚魯西亞小通商もリ之の五十二
國但帝号を稱シ諸王ハ通商セド
之ミ其國公舉く今ラニの國名明人
の國說等小載け處の者ハ即リの下
漢字を附其ノ下譯及せシふ外の

之のハ姑ホウニ記メシヘ後考ヒヨウト候

亞細亞洲

○マボンスコイ 大日本

皇朝カウノノ彼邦ヒノクト通商ムサシゼズシテ之其
國名を舉ハタハタル之の上小云处ヒヨウノと

○キタイスコイ 支那 即大清國

○ペルシスコイ 百兒齊ヒルギ西國

○左リコイ モキリスコイ 大莫モウ即兒國

以上四國の皇帝統御の國

メカ 墨加 亞刺比亞國の地

ハルタスコイ

エサボル 非沙布爾

ヨルコンダスコイ 卧尔工太

カレクタスコイ 加里古土 异小應帝亞國安義

カヒムインヂスコイ

シアムスコイ 邏羅

カムボマスコイ

東蒲塞

マワ ペグスコイ

獨木

マワ 哇吼

ペグスコイ 琉牛

金馬

アラキンスコイ

亞臘罕

アカムスコイ 亞罕 异小應帝亞國安義

トンキンスコイ

東京

ヨキヒナスコイ

各正

○立リコイ テベテスコイ 得白得

○マロクスコイ 窓アホ マロクキ 馬路古ガリ

赤道線下小散在セリ 海島ガリ 下の

海鴻の都ト入キ はふ載たりハ語

ナシ

○グルジマスコイ

マ以上十六國ハ王侯又ハ官長ニミツリ

理ハ

○サ地

○マルヂペスコイ 馬児地襤島一名萬島應

帝亞海中 赤道線下ムウ

○カンヂマスコイ 甘的亞 地中海中ムウ

○アセムスコイ 楢アホアセムハ安義江内ノ

地アホ 今大莫即兒アホ属モ海鴻の中

載ルハ語ナシ

○マテラシスコイ 哇吼の地アホ

○ボル子ラスコイ 劍泥

○マカサルスコイ

食カ百私ハツシのタガ

○テルナイスコイ

得尔那テルナ的ヂ并尔應帝ヒルヨウテ亞海

以上七國皆海島小係キニ各官長カクチ主シテ處治チフジ又大國小屬シム附フ勞海ラウハイ

歐羅巴洲ヨーロッパ

○ロシイスコイ

魯西亞國ルシヤ

○ゼルマニスコイ

一名リムスコイ 熱尔馬泥ヒルマニ亞

國

○ヲトニスコイ 一名トレツコイ 都見格國ドミヤク

以上三國皇帝統御テウシヨウの國クニ

○ポルツガリスコイ 波爾杜瓦ボルトワ

○ギシバニスコイ 伊斯把泥イシバニ

○フランツースコイ 拂郎察ブランザ

○イタリマスコイ 意太里亞イタリア

○アンゲリマスコイ 諧厄利亞イギリヤ

○一名立利亞布里頓斯科イ 大貌利太泥ダーリタニ

○ダニヤスコイ

太泥亞

即第那瑪尙加

○スモチスコイ

雪際亞

○ボルニマスコイ

波羅泥亞

○タシギリマスコイ

翁加里亞

○ブルシヤスコイ

李漏仙

○以上十國王族所理の國

○ガラシデスコイ

和蘭地

○スモキリスコイ

羅亦齊亞

○豆シクリスコイ

○ゲヌアスコイ

熱擎亞

意太里亞の地

○ルカスコイ

熟爾馬泥亞の地

○以上五國八省長をもと四十九地

○亞弗利加洲

○アルジルスコイ

亞爾機爾

○ツニスコイ

堵泥素

○テリボリタンスコイ

得利非

以上三國官長所理の國カナ今

多々都爾格小隸ミツル

亞墨利加洲アメリカ

アバラハスコイ

コサスコイ

カハギニスコイ

乞巴爾坦斯コイ

以上四國

通計

五十





